



フィリピン台風被災地支援 報告 4

2013 年台風 30 号による被害

募金総額 **9,445,275 円** が寄せられました

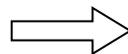
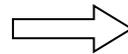
みなさまのご協力に心より感謝申し上げます

300 万円をアジア・太平洋 YMCA 同盟に送金しました。
現地のワークキャンプに 14 名を派遣し、キャンプ運営費を送金しました。

台風の被害により、屋根は吹き飛ばされ窓ガラスが割れ、骨組みや土台だけが無残な姿となって残された、タンバリザ地域の公共施設や住民の家々。皆様から寄せられた募金を用いて、5月にアジア太平洋 YMCA 同盟加盟各国の YMCA の仲間たちと共にワークキャンプを行い、日本の YMCA から 14 名が参加して、建物の修復を行いました。その後、イロイロ YMCA のサポートの下、現地住民によって細かな修復作業や生活再建事業が進み、笑顔と元気が戻った地域の現状をお伝えします。

<校舎の修復①>

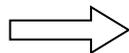
小学校の校舎は、天井やトイレ、教室のドアや窓が補修されました。教室の後ろの壁には絵が描かれ、教室に賑やかな雰囲気になりました。学校よりも低い位置にある湧水から水を引くためのポンプも設置され、清潔な水が供給されるようになりました。机と椅子も新しくなりました。



Emergency Support for the Philippines

<図書館の修復②>

高校の敷地内には新しい図書館が建設されました。無残な姿となった元の図書館は一旦取り壊され、25 平米の新しい図書館へと生まれ変わりました。それに伴い本棚、椅子や机も新調しました。新しいトイレ棟も建設されました。



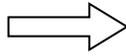
修復された校舎での子ども達の様子



<ダイケアセンター>

台風の被害を受け、無残な姿となったダイケアセンターも、修復作業により屋根、柱、壁などがすべて新しくなりました。トイレや台所などの水回りの配管も整備が行われました。

修復された新しい建物では、6月9日から無事クラスがスタートしました。



<村の生活再建支援>

2014年5月にタンバリザ村に暮らす人々の生活と職業再建を支援するための物資が届けられました。

家屋の再建のための資材や購入の支援として、151世帯が対象となりました。資材の搬入は村人たちが協力して手作業で行われました。

(右写真：資材を運ぶ村の男性達)



小売業を営んでいた30名を対象に、再建支援として5,000ペソ（約12,000円）が支給されました。これを元手に各々計画した再建計画に基づいて小売業を再開し、収入向上を目指します。また専門職（大工、調理、美容など）に就いていた40人にも、必要な道具を購入するための資金の支給が行われました。

(左写真：支援金を受け取る村の女性)

養豚に取り組む村人へは、40頭の子豚が支給されました。

こうした本来村の人々が行っていた仕事に基づいた再建支援によって、村の人々はこれから再スタートを切る希望を得ることができました。漁業や農業を営む村人への支援は、今後継続的に行われます。

(右写真：子豚を支給された養豚を営む村人)



多額の支援金を投入して大規模な再建を行うのではなく、本来の村の生活を基盤に、新たな出会いや機会を提供し、村の大人達やユース達の協同やリーダーシップを築きながらよりよい村づくりを今後も行っていきます。